

# 2013年の国際システムの 変化とアジア情勢

劉 江永

清華大学当代国際関係研究院 副院長

2013年12月

# 一、問題提起：如何に21世紀の 国際システムの変化を認識すべきか

- 1、複眼でみるべき多極化の実像
- 2、非伝統的国際枠組みの出現
- 3、異なる多国間主義と世界の流れ
- 4、国際システムの変動と国家モデルの競争

# 図1、多極化の実像

世界の枠組み

一極多元

大国関係  
「一超多強」

地域的枠組み  
多元共存、  
多極対抗

政治的枠組み

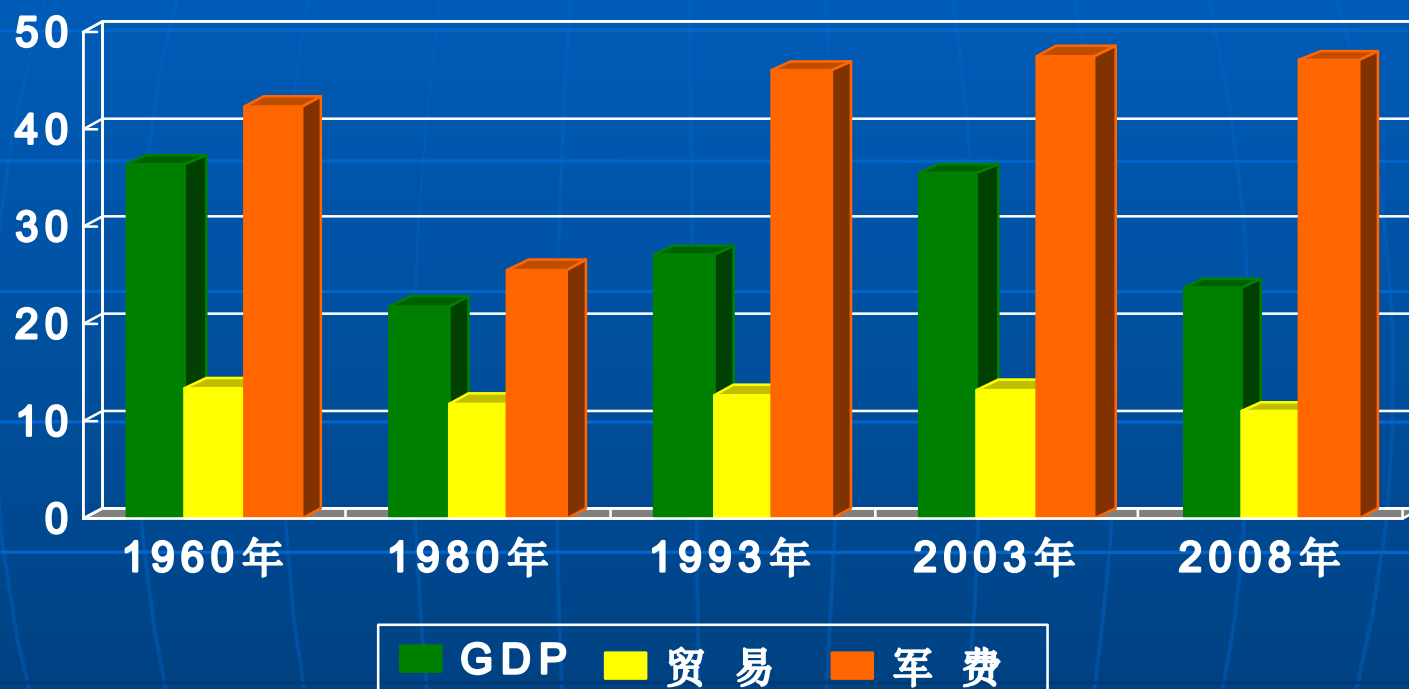
金融的枠組み

一極多元

軍事的枠組み  
「一超多強」

経済的枠組み  
多元共存

## 図2、相対的に落ちる 世界におけるアメリカの地位の変化



资料来源: OECD *Economic Outlook*、世界银行《世界发展报告》、斯德哥尔摩和平研究所 (SIPRI) 报告等。

# 図3 非伝統的国際枠組みの出現

伝統的国際枠組みの特徴

国VS国

国際組織VS国際組織

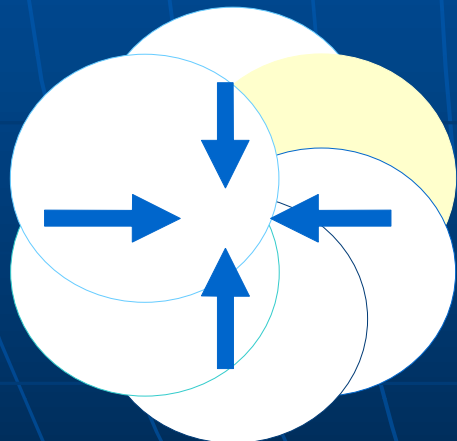
国際グループVS国際グループ

非伝統的国際枠組みの特徴

国VS非国家、非政府、個人

国際組織VS非国家、非政府、個人

国際グループVS個人グループ



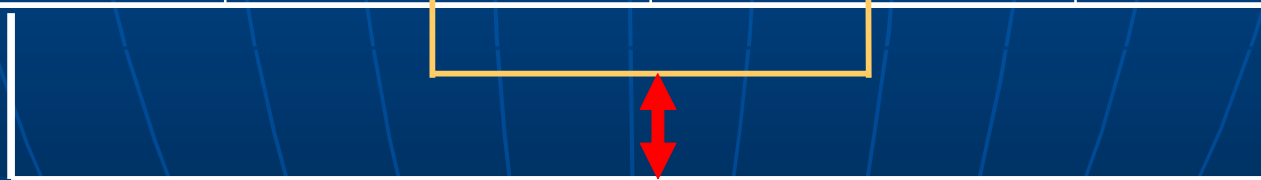
見えない一極



米国など

# 図4 国際システムにおける異なる多国間主義

グローバル 平和的多国主義	地域 暴力的多国主義	グローバル 暴力的多国主義	地域 平和的多国主義
国連、WTO IMF、 アジア銀行	NATO、 日米同盟等	多国部隊 有志連合	APEC、ARF 上海協力機構 、六者協議
政治、経済、 社会、環境、 金融、文化	軍事同盟 共同作戦	軍事関与	経済協力、 政治対話、 地域統合



## 二、2013年：平和的多国主義勝利の年 二つの象徴的な出来事に見える米国の変化



1、シリア内戦の政治解決を目指す和平会議が、目指していた2013年11月中の開催は、調整がつかなかったが、ロシア、中国の努力と英国、ドイツ、米国の協力によって、NATOのシリア内戦に関与することが避けられた。

これは、ポスト冷戦より、23年はじめて、暴力的多国主義は阻止された例と言えよう。



ジュネーブで24日、イランの核問題をめぐる合意を受けて握手する米国のケリー国務長官（右）とイランのザリフ外相＝ロイター

2、イランと米英独仏中ロの6カ国は11月24日、イランがウラン濃縮活動などの核開発を縮小し、見返りに同国への制裁を一部緩和する「第1段階の措置」にジュネーブでの外相級協議で合意した。

オバマ米大統領は「外交がより安全な世界への新たな道を開いた」と強調した。原子力を平和利用する権利は認め、「核兵器開発を不可能とするための厳しい制限を受け入れなければならない」とも語った。イランのロハニ大統領は「政権の目標は世界との協力だ。協力は信頼を通してのみ可能になる。今日がその第一歩だ」と述べた。

30年以上、敵対関係にある米国とイランの関係改善にも大きな意味を持つ。



### 三、2013年東アジア情勢の特徴：

1、朝鮮半島は、緊張した情勢が緩和になりつつあるが、不確実な要因要素がなお存在する。

2、東南アジアは、タイランドとカンボジアとの国境紛争が静かになったが、タイランド国内情勢が混乱に陥る。

3、中国と韓国との関係はより緊密になるが、日本との関係は戦後最悪と言えよう。

4、中国とベトナムなどASEANの国々との関係改善しつつある。

5、大国の力関係の変動と共に、アジア太平洋の戦略的国際関係の枠組みが変わりつつある。

表1 国家発展モデルから見る中、日、米、露の歩んできた道  
 [1840年～1949年～1979年～2009年～2049年]

	1840-1945	1949-1978	1979-2009	2010-2049
中国	アヘン戦争、半植民地と半封建	大躍進、文革、階級闘争	経済建設を中心とする中国	平和発展と和諧社会の実現
日本	明治維新から軍国主義	経済優先と高度成長の日本	政治大国の迫及と経済低迷	?
アメリカ	帝国主義と戦勝国の米国	冷戦政策と覇権を求める	一極追求と金融危機を招いた	?
ロシア	帝国主義から社会主義のソ連	冷戦政策と覇権を求める	ソ連崩壊開始とロシアの復活	?

## 表2. 国際システム、国家モデルと中日関係の変遷

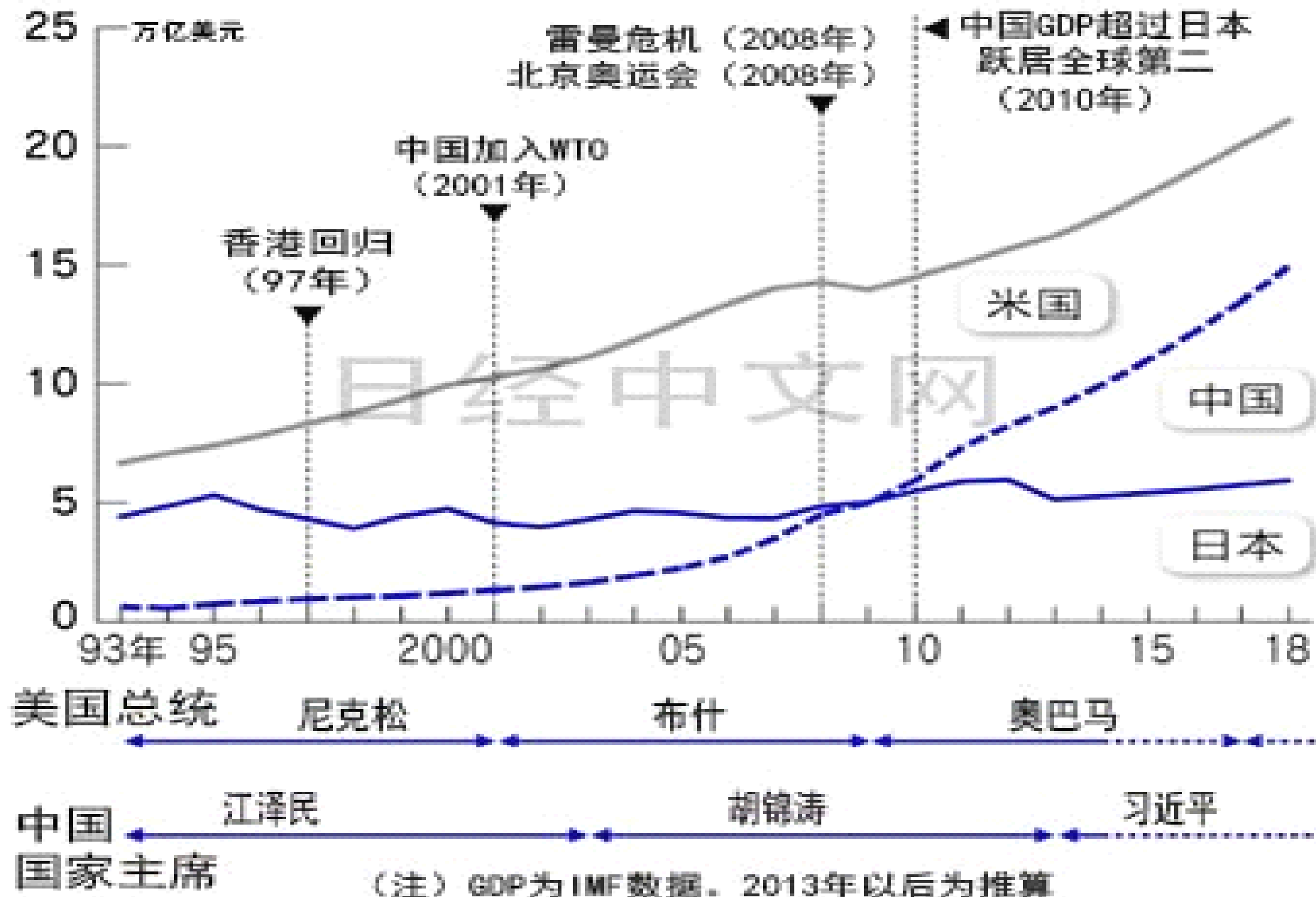
	1868～1945	1945～1983	1983～2010	2010～？
国際システムの枠組み	帝国列強の軍事的多極争覇	米蘇二極冷戦対抗争覇	米蘇二極よりポスト冷戦「一極多元」	国際枠組みより多元化
日本の国家発展モデル	軍国主義武力拡張	米国頼りの経済優先	米国頼りの「政治大国」	米国利用する強国路線
中日関係	日本の対中侵略戦争	冷戦から国交正常化	矛盾の中で発展を図る	戦略的互惠関係より戦略的対抗関係に変わる？

注：筆者作成

## 四、問題提起：如何に新時代における中米日関係の変化を認識すべきか

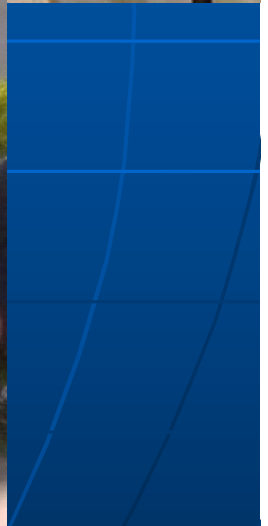
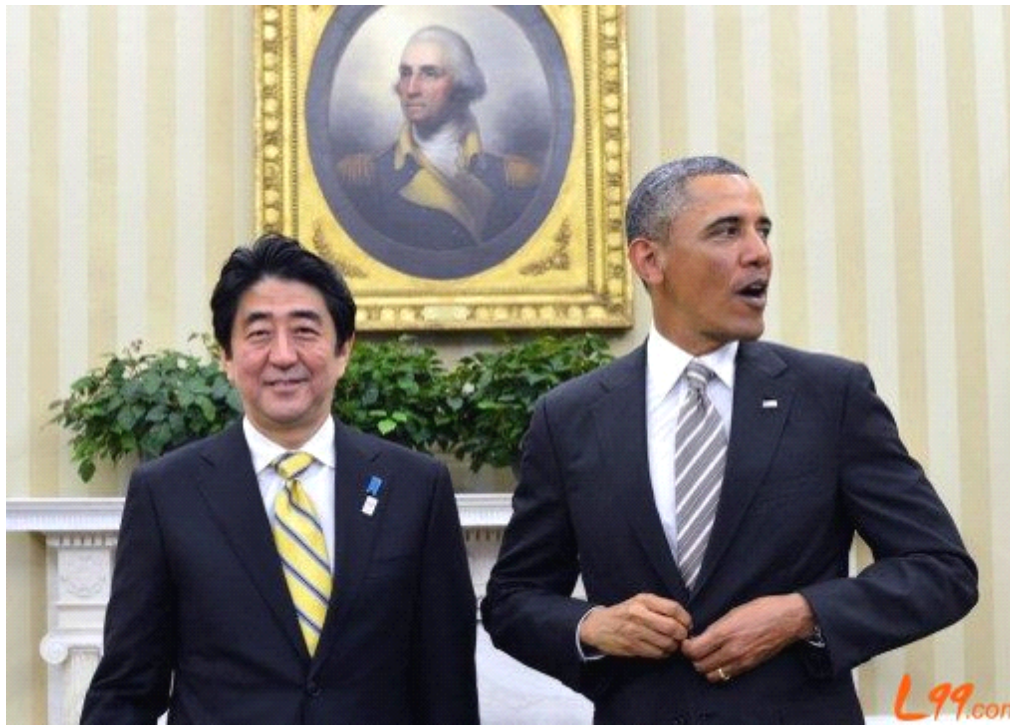
- 1、中米日の力関係の変化とその意味
- 2、中米関係と米ソ関係とは違う
- 3、日米関係にも悩みが増える
- 4、中日対立は戦後初めて東アジア地域における主な矛盾となりつつある。

# 中美日的GDP以及主要事件





中米新型大国関係：互いに対抗しないこと、尊敬しあうこと、協力による共勝ち



日米同盟関係：連携による対中抑止？防衛ガイドラインは如何に作り直されるか？



手も島で発を  
 一方アフガニスタン情勢は、「9.11」の首謀者ウサマ・ビン・ラディンの殺害によって大きく動き出し、10年にわたって泥沼の戦いを続けてきたアメリカ軍がアフガンから撤退することとなった。

### 東シナ海での中国の海洋進出



### 尖閣諸島への中国船の接近 (2011年1～8月)

日付	おもな行動
1月27日	漁業監視船が尖閣諸島の北西約29kmの接続水域を航行。
3月5日	漁業監視船が尖閣諸島の北西約44kmの接続水域を航行。
3月9日	漁業監視船が尖閣諸島の接続水域に入り、領海まで接近。
3月11日	漁業監視船が尖閣諸島の北約44kmの接続水域を航行。
7月3日	漁業監視船が魚釣島付近の接続水域を航行。
7月30日	漁業監視船が魚釣島の北北西約28kmの接続水域を航行。
7月31日	海洋調査船が魚釣島北北西の日本の排他的経済水域を航行。
8月24日	漁業監視船2隻が久場島から約19kmの日本領海内に侵入。

### 南シナ海をめぐる対立

湛江

台北



## 五、問題提起：如何に理想的な中米日 関係を目指すべきか

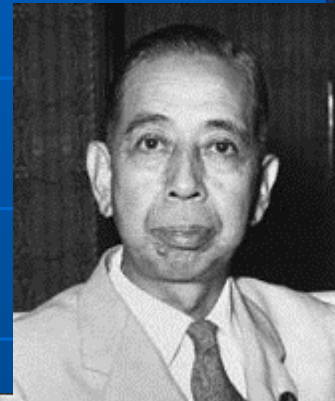
1、ニューパワーと伝統的パワーの間に  
新型関係とは何か

2、ニューパワーと伝統的パワーの間に  
新型関係の樹立は可能か

3、新型関係のアプローチは、中日関係  
に適用するか

4、持続可能な安全保障戦略と中米日関  
係のあり方

# 日本リーダーのタイプは 日本の将来と日中関係の成行きを決める。



御清聴ありがとうございました